

## 松下幸之助記念志財団 研究助成

## 研究報告

(MS Word)

【氏名】 柳采延

【所属】(助成決定時) 東京大学大学院総合文化研究科

## 【研究題目】

現代韓国女性にとっての労働と家庭

## 【研究の目的】(400字程度)

近年の韓国においては、所得と消費における階層間格差は益々広がりつつある。そのことは出産・養育・教育などの労働力再生産ができる層と再生産ができない層への分化をもたらしている。一般的に出生率の低下は高学歴女性を中心に起こるとされるが、韓国では近年、高学歴女性の合計特殊出生率の方が低学歴女性のそれより高くなるという特殊な現象が起きている。

このような韓国社会の近年の変化を念頭に置き、本研究は高学歴女性の仕事と家庭(労働力再生産)にかかわる意識の特徴を把握することを目的である。特に、韓国社会における高学歴女性たちの専業主婦という選択はどのように位置づけられるかということ、経済の不平等化と家庭内ジェンダー不平等という観点から考察する。

## 【研究の内容・方法】(800字程度)

2000年代以降の韓国社会は、経済的不平等が拡大していく中で少子高齢社会・未婚化・晩婚化など労働力再生産構造が急速に変化してきた。雇用の不安定化・若者の経済力低下などによって「近代的な家族」をつくれる人々は減少しているにもかかわらず、「理想的家族」像を規定する法案を通じた家族イデオロギーの強化、養育の再家族化、女性の「二重負担」に基盤した性別役割分業規範の維持などが2000年代以降の家族関連の政策・制度面において見られた。本研究は、以上のような社会変動の中で、夫婦間において生産労働と再生産労働はどのように組み込まれているかということに着目し、家庭内におけるジェンダー不平等の問題と女性の仕事と家庭のライフコース選択を結びつけて考察する。

具体的には、これまで韓国のソウル所在4年制大学あるいは大学院を卒業した既婚女性(30-40代)16人を対象にインタビュー調査(調査期間:2019年10月-2020年9月)を行った。具体的には、労働と家庭についての志向(自立志向・仕事中心、専業主婦志向、両立志向の別を把握する質問。それらの志向の変化有無とその契機)、そのような志向やライフコース選択の背景にある意識(結婚・養育・教育に対する意識、労働市場・家庭内における女性の地位、夫婦間の生産労働と再生産労働の分担に対する意識など)を中心に半構造的インタビューを行った。

この調査から、高学歴女性の専業主婦志向に見られる特徴と、家庭内の女性の二重負担というジェンダー非対称性の問題が階層の問題を絡み合い、どのような女性のライフコース選択やその意識に影響しているかということについて考察する。

## 【結論・考察】(400字程度)

高学歴女性たちの専業主婦志向には、積極的に専業主婦を選択するというよりも、「専業主婦になっても良い(と思っていた)」「専業主婦になるかも知れない」という意識がみられた。そのことは選択の自由度が比較的高いことを意味する。

また、就業有無に関係なく、専業主婦家庭の性別役割分業よりも、女性の仕事・家庭の二重負担の方が「不平等、男性中心的」と認識される傾向も見られる。

本調査からは、階層の問題と役割のジェンダー非対称性の問題が絡みあい、2000年代以降韓国社会の経済的不平等の進行と女性たちに課せられる新たな役割規範(二重負担規範)とともに、一見ジェンダー不平等

に見える専業主婦家庭の方が女性の負担がより少なくむしろ進歩的であるとされる傾向が垣間見られた。しかし、世代効果や時代変化を追うために、また各属性との有意な相関をより正しく把握するためには、他の学歴と幅広い年齢層を含めた大規模のアンケート調査が今後必要であると考えられる。